

## 医療大学生が「ゆうゆう24」を中心にイベント開催

24時間テレビチャリティーイベント実行委員会

青少年活動センター「ゆうゆう24」は、医療大学生のボランティア拠点として、昨年5月にオープン。センター内には、福祉施設の製品展示販売や町民が立ち寄れる喫茶コーナーを備え、おしゃれて若々しい雰囲気が漂い、2階は、子どもの一時預かりサービスを行っている。

また、体の不自由な方の犬の散歩やパソコン調整、共同作業所の支援活動など、町民のさまざまなボランティア要求に応じ地域の人とのふれあいを増やし、活動の幅が徐々に広がっている。



「今回のイベントを、町民の方々に助けてもらいながら成功できた充実感でいっぱいです。大学の後輩や、町民の方にも、何かを残せたと思います」と切々と語る大原実行委員長。

24時間テレビ「愛は地球を救う」に協賛し、昨年に引き続き2回目のチャリティーイベントを開催。今年は、8月23・24日に阿蘇公園をメイン会場にたくさんの町民が参加できるイベントを企画し、1,200人が会場に足を運びました。

「計画が具体化し、飲食・イベントなど各部門が動き出したのは、1カ月前前だったので眠れない日も続きました。学生の中でも意見が分かれたり、スタッフとしての意識が薄い部分があったりと足並みが揃わないこともありました」と、準備段階での苦労を振り返ります。

「でも、自分達の思いを町民の方に相談していくうちに、たくさんの方にアドバイスや協力をしてもらいました。何回も話し合いをして、私達の趣旨に賛同し手伝ってくれた町民の方に、温かい言葉をかけてもらい勇気付けられ、みんなの気持ちも一つになってやっていける自信が湧いてきました」学生スタッフの思いを受け止め、わがままを聞いてくれた町民スタッフへの感謝は膨らみます。

「やってみたかった高齢者と小学生の交流を考えていたときに、紙芝居をやろうと声をかけてくれた方がいたり、無理だと思っていた商店街でのフォークダンスも実現することができました。FMラジオを使ってリアルタイムで町民の方に放送できたのも、技術的知識を持った方のおかげでした。各部門で動いてくれた学生

と、協力してくれた町民の方の連携で大きなことができることを実感しました」

しかしながら、天気だけは誰にもどうすることもできません。当初、晴天と確信していた天候が、2日前になって雨模様が心配される状況に急変になったのです。「雨対策に何回も会場を下見して、急きょ雨用テントも用意したり、“ゆうゆう24”の前にもたくさんの『てるてるぼうず』を吊るしました。でも、これでお一層スタッフの気持ちもまとまり、自分達が納得するものができる確信につながりました。結果的に雨も降らなくて、予定通りに行うことができ、多くの方に足を運んでももらいました。当別町民のみなさんと関わることで学生にも当別に対する愛着が生まれたと思います。来年につながる事業ができました。みなさん本当にありがとうございました」イベント最終日、薄暗くなったフィナーレ会場で、大原さんを初め、学生スタッフは大事業の達成感に大粒の涙を流しました。



募金所に設けられた巨大ふくろう。募金に来た人の思いが、一枚一枚の羽に込められた。募金と収益金の一部、**329,452円**を24時間テレビに寄付しました。